

ふるさと
“やまなし”に
生きる子供たちの

豊かな心の
育成のために

TSUBASA (No.50)
つばさ50号

山梨県教育委員会

道徳科に生かす指導方法の工夫

教材の提示

道徳的価値を主体的に自覚していくための手がかりとして、それぞれの児童生徒とねらいを結び付ける役割を担うのが教材である。主に教師による範読が行われているが、ICT機器で場面絵を提示したり、劇のように動きを入れて提示するなど、視覚的に捉えやすくする方法も有効である。複数の方法で教材を提示し、内容を捉えやすい方法を児童生徒が自分で選択するという工夫もできる。思考をより一層深める教材の提示を工夫したい。

発問

児童生徒の思考や反応を予想し、考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問を心がけたい。児童生徒の発言を受け、教師が即興的に、あるいは意図的に行う「問い返し」「切り返し」も大切である。「問い返し」により、抽象的だったり、理由や根拠が明確でなかったりする児童生徒の発言を具体化させることができる。また、「切り返し」では、児童生徒に意図する内容を角度を変えて見つめさせ、授業に深みをもたらすことができる。

話し合い

話し合いを通して、自他の感じ方、考え方を比較、検討することで、道徳的価値についての理解を深め、自分の感じ方、考え方のよさや課題に気付くことができる。そのためには、自由に発言でき、互いに安心して学び合える支持的風土の醸成が大切である。また、多様な考え方が生まれる内容や児童生徒から出てきた疑問や考えてみたいことをテーマに設定するなどして、児童生徒が夢中になり、主体的に取り組めるような話し合いを仕組みたい。

書く活動

一般的には、道徳ノートやワークシートが使われている。これらにより、児童生徒は自己の成長を実感し、これまでの学びの足跡を確認することができる。毎時間のまとめだけでなく、学期ごとに振り返ることで、自己の成長や課題について自己評価に活用したい。さらに、学校と家庭の「架け橋」となる効果も期待できる。書くことが苦手な児童生徒には、教師が聴き取って記入したり、表情シールや記号で自分の考えを表現させたりするなどの配慮を心がけることが求められる。

表現活動

表現活動を通して、登場人物の心情や行動などを疑似体験することで、道徳的な問題場面に深く関わることができる。ねらいの根底にある道徳的価値について共感的な理解を深め、主体的に道徳性を身に付けることにつながる。単に体験や活動を目的とするのではなく、役割演技や動作化等を通して、感じたことや考えたことを共有しながら、道徳的価値に気づき、実現することの難しさやそのよさを考えられるようにすることが大切である。

板書を生かす

板書は、児童生徒にとって思考を深める重要な手がかりとなる。心情や道徳的価値を自覚する場面に合わせて高さを変えて場面絵を掲示したり、場面絵を中心に置いて登場人物の心情や立場の違いを強調したりするなどの工夫が考えられる。児童生徒の意見を書くだけでなく、思考の流れや気づきを構造的に板書することを心がけたい。話し合いを深めるために、自分の考えや立場をネームプレート等を用いて表す方法も有効である。

説話

説話は、ねらいの根底にある道徳的価値を、児童生徒がより身近に考えられるようにするものである。「やってみよう」「実践してみよう」という意欲を高める効果がある。説話の内容は、身近な時事問題や児童生徒のエピソード等様々であり、教師自身が日頃からアンテナを高くし、その材料を集めるよう心がけることが求められる。学年や学校体制で道徳の指導計画を共有し、日常的に説話の材料集めを行うような教員同士の関わりを大切にしたい。

道徳科に生かす指導方法を工夫するためには、ねらいや児童生徒の実態、教材、学習指導過程に応じた、適切な指導方法となっているかを児童生徒の姿から評価することが大切です。「多面的・多角的な見方」「自分との関わりの中で深める」という学習評価の視点について、次の点を参考にしてください。



多面的・多角的な見方とは	自分との関わりの中で深めるとは
<ul style="list-style-type: none"> ▶ねらいとする道徳的価値の様々な面を捉えて考える ▶ねらいとする道徳的価値を支える様々な根拠を考える ▶様々な立場で考える ▶時間の経過とともに変化する気持ちを捉えて考える ▶人間の弱さや強さ(人間理解)を捉えて考える など 	<ul style="list-style-type: none"> ▶教材の問題点等を自分のこととして受け止めて考える ▶日常や学校生活等を想起しながら考える ▶自分の生活を見つめ、振り返りながら考える ▶自分だったらどうするか考える など

<特別な配慮を必要とする児童生徒への指導について>

発達障害を含む特別な支援を必要とする児童生徒はもちろん、海外から帰国した児童生徒、日本語習得に困難のある児童生徒等に対する配慮として、それぞれの学習の過程で考えられる「困難さの状態」をしっかりと把握する必要があります。状態を把握した上で、ルビ付きの教材を使う、表情シールで考えを聞くなどの必要な配慮を考えましょう。



第○学年 道徳科学習指導案

日 時 平成○○年○月○日(○)
 ○時○分～○時○分
 授業者 ○○○○

- 1 主題名 ○○○○○ A-(1)善悪の判断, 自律, 自由と責任
 *ねらいと教材で構成した主題を, 授業の内容が概観できるように端的に表したものを記述する。原則として, 年間指導計画における主題名を記述する。
- 2 教材名 ○○○○○(出典:)
- 3 ねらい *内容項目を基に, ねらいとする道徳的価値や道徳性の様相(道徳的判断力, 心情, 実践意欲と態度)を端的に表したものを記述する。
 *道徳科の目標から考えると, 道徳的判断力, 心情, 実践意欲と態度のうち, 何が本時のねらいかが明確になるようにする。ただし, 様相は必ずしも一つに限定されるものではない。
 *どのような学習活動を通して, どのような道徳的価値に気づき, 何を育むのか記述する。

4 主題設定の理由

(1)ねらいとする道徳的価値について

*ねらいや指導内容についての教師の捉え方などを記述する。内容項目を正しく理解するために, 「学習指導要領解説」を参考にする。

(2)ねらいに関わる児童生徒の実態について

*扱う道徳的価値に関連するこれまでの学習状況(含む, その成果や課題等)や実態, 教師の願い等を記述する。

(3)教材について

*教材のあらすじだけでなく, 使用する教材の特質や取り上げた意図及び児童生徒の実態と関わらせた教材を生かす具体的な活用方法等を記述する。

5 学習指導過程

道徳科の学習指導過程には, 特に決められた形式はないが, 一般的には以下のように, 導入, 展開, 終末の各段階を設定することが広く行われている。このような指導を基本とするが, 指導の意図や教材の効果的な活用などにあわせて弾力的に扱うなどの工夫をすることが大切。

過程	学習活動と主な発問	予想される児童生徒の発言	指導上の留意点
導入	動機付けを図る段階	本時の主題に関わる問題意識を持たせる, 教材の内容に興味や関心を持たせる	
展開	ねらいを達成するための中心となる段階	児童生徒の実態と教材の特質を押さえた発問をする, 主題が明瞭となった学習を心がける	
終末	今後の発展につなぐ段階	学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる, 学んだことを更に深く心にとどめたり, これからへの思いや課題について考えたりする	

6 評価の視点

*児童生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうかという点や, 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうかという点などに着目した評価について記述する。

*道徳科における評価については, つばさ49号を参考。

7 その他

*例えば, 板書計画や使用するワークシート, 校内研究との関連, 他の教育活動との関連などが考えられる。授業が円滑に進められるよう必要な事柄を明記する。

山梨県総合教育センターHPの教育情報コンテンツデータベースに, これまでの優れた実践の指導案が掲載されています。参考にしてください。



山梨県総合教育センター ⇒ 授業支援 ⇒ 学習指導案
<http://cdb.kai.ed.jp/search.php>

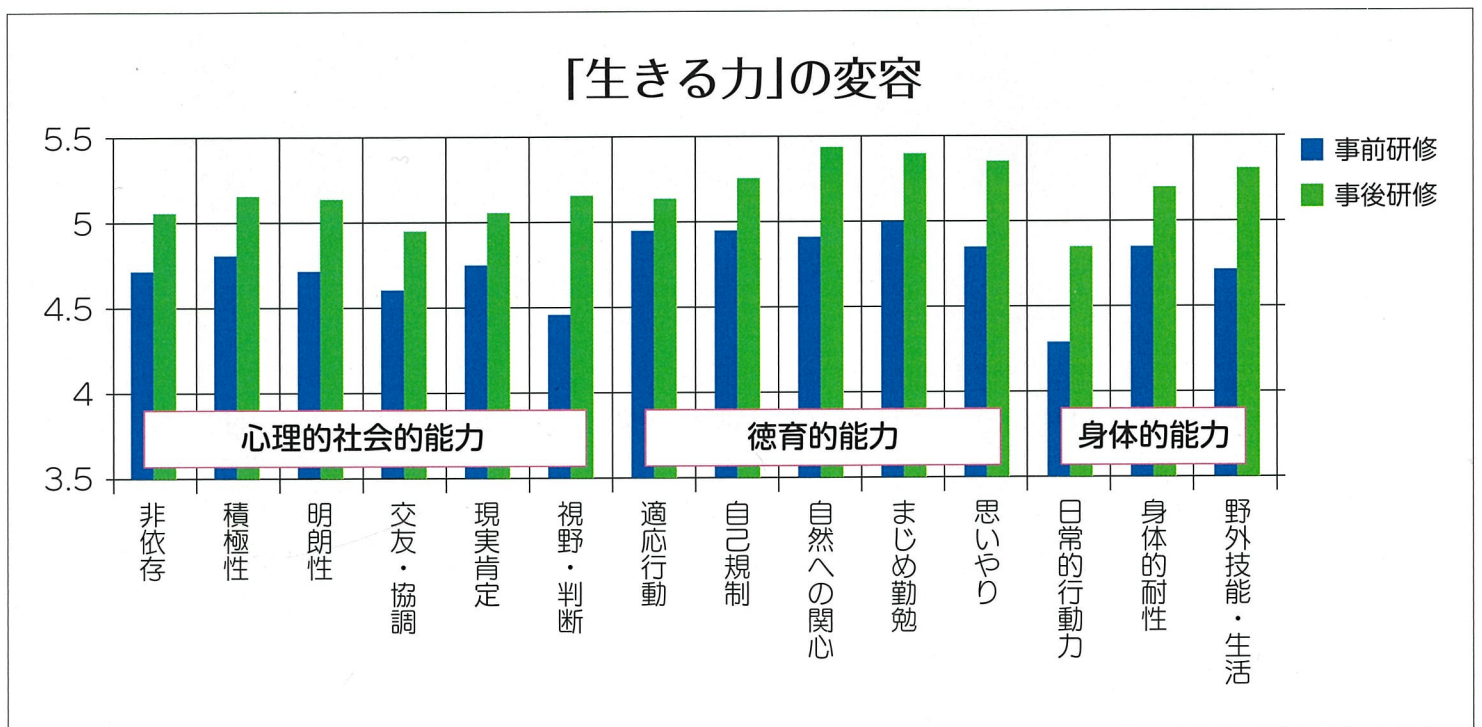


県では、昭和63年度から、中学生を対象に八丈島での自然体験活動「やまなし少年海洋道中」を実施しています。今年度31回目を迎えたこの事業は、これまで1,589名の参加者と、延べ541名の指導者に支えられてきました。山梨県から遠く離れた八丈島で、初めて出会った参加者同士が力を合わせて生活する活動は、まさに「生きる力」の育成につながっています。

平成21年度より実施しているIKR評定^{*}では、本事業に参加した中学生の「生きる力」の変容を研修前後で検証しています。8泊9日という長期の共同生活で参加者は、心も身体もみるみる成長していきます。「心を育てる」という道徳の大きなテーマにおいて、参加者が大自然の体験活動の中で育つ力は計り知れません。実際、IKR評定からも、参加者の「徳育的能力」が向上していることが分かります。

この事業の道徳的価値に資する内容を考えたとき、仲間との体験活動を通じた、より良い判断、より良い行動が、常に求められるところがその根底にあるのではないのでしょうか。この「やまなし少年海洋道中」のような、ひとりでは成し得ないことを経験する、多くの仲間と喜怒哀楽を共有することこそが、道徳的価値観を高める上では必要不可欠です。

※IKR評定：「心理的社会的能力」「徳育的能力」「身体的能力」の3つの尺度をもとに「生きる力」を1～6点で評定。



あとがき

道徳教育推進協議会委員長 元中央市教育長 比志 保

創刊37年、「つばさ」も50号となりました。歴代の関係者、県民各位に心より感謝申し上げます。「つばさ」で一貫している主題は「心」です。先生方と共に、校内暴力、不登校、いじめ、道徳教育等に向き合い研究実践を広げるべく努力してきました。

継続は力なり。お陰様で、山梨の子供たちは、全国学力・学習状況調査の質問紙調査に見られるように、全国に比べ、自分を前向きに評価し将来への夢や希望を持ち、きまりを守り地域行事等へ積極的に参加するなど、よりよく生きようとしています。

未来は未だ来たらざる未知の世界。失敗のない人生なんてありません。大切なのは失敗をより少なく、よりよく生きることであり、そのための基盤となる道徳性を養うことです。教育の要諦は愛（を）しの心。「おのが子を恵む心を法（のり）とせば 学ばずとて道に至らん（二宮尊徳）」。子供たちが豊かな心、よりよく生きる心を育み大きく羽ばたくことを願っています。